

〔更科日記〕たけしばのをのこに、いけらん世のかぎり、武藏の國をあづけとらせて、おほやけごともなさせ、たゞ宮に、その國をあづけ奉らせ給ふよしの宣旨下りにければ、此家を内裏のごとくつくりて、すませ奉りける家を、宮なごうせ給ひにければ、寺になしたるを、たけしば寺といふなり、その宮のうみ給へるごどもは、やがてむさしといふ姓をえて、なん有ける。

〔日本紀略十一條〕寛弘四年十月廿九日壬戌、群議因幡守橋行平、殺介因幡千里之由、

〔通志略氏族一〕論得姓受氏者、有三十二類、略○中一曰、以國爲氏、二曰、以邑爲氏、天子諸侯建國、故以

國爲氏、虞夏商周魯衛齊宋之類是也、卿大夫立邑、故以邑爲氏、崔盧鮑晏臧費柳楊之類是也、略○中

五曰、以地爲氏、有封土者、以封土命氏、無封土者、以地居命氏、蓋不得受氏之人、或有善惡顯著、族類

繁盛、故因其所居之所而呼之、則爲命氏焉、居傳巖者爲傅氏、徙稽山者爲稽氏、主東蒙之祀爲蒙氏、

守橋山之冢則爲橋氏、彰氏因彰、班食於彰門、穎氏因考叔爲穎、谷封人、東門襄仲爲東門氏、桐門右

師爲桐門氏、皆此道也、隱逸之人、高傲林藪、居於祿里者、呼之爲祿里氏、居於綺里者、呼之爲綺里氏、

所以爲美也、優倡之人、取媚酒食、居於社南者、呼之爲社南氏、居於社北者、呼之爲社北氏、所以爲賤

也、又如介之推、燭之武、未必亡氏、由國所取信也、故特標其地、以異於衆、凡以地命氏者、不一而足、

以外國名爲姓

〔新撰姓氏錄右京皇別〕新良貴。

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊男稻飯命之後也、是出於新良國、卽爲國主稻飯命者、新羅國王之祖也、日

本紀不見。

〔新撰姓氏錄和泉國神別〕韓國連。

采女臣同祖、武烈天皇御世、被遣韓國、復命之日、賜姓韓國連。

〔三代實錄六清和〕貞觀四年七月廿八日乙未、左京人造兵司少令史正六位上飛鳥戶造禰道、賜姓百濟。

宿禰、百濟國混伎之後也。